

長期不妊治療患者のサポートについての検討  
～患者会を通して～

小松原千暁<sup>1</sup>，金田真紀<sup>1</sup>，荻野友貴子<sup>1</sup>，山本あゆみ<sup>1</sup>，福田愛作<sup>1</sup>，森本義晴<sup>2</sup>  
医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック<sup>1</sup>，医療法人三慧会 IVF なんばクリニック<sup>2</sup>

【目的】長期不妊治療患者を対象として 1)家族ってなあに？、2)卵子提供、3)養子縁組をテーマとした患者会を行い、その結果を踏まえて今後の患者介入の方法について検討した。

【方法】長期不妊治療中の患者夫婦 5 組 10 名に対し不妊症看護認定看護師、看護師、心理士、認定遺伝カウンセラー各 1 名が参加した。1)では夫婦、家族、子どもなどについて事前アンケートを行い 2)3)ではその場で情報提供後に、それぞれディスカッション形式の患者会を実施した。各会の実施後に参加者に対して倫理的配慮のもと無記名アンケートを実施した。また、匿名性を条件に会の感想を伺った。

【結果と考察】アンケート結果では、夫婦について「一つの目標に向かって進むことができる関係」「信頼し支えあっていく存在」、卵子提供について「様々な問題と覚悟が必要」「希望を与える手段だが、費用が莫大」、養子縁組について「成立後の子育ての大変さが勉強になった」「親子の絆や試し行動など考えさせられた」などの解答があった。会終了時の感想では「他の人の考えを聞く機会になった」「考えなければいけないと思っていた」などの意見があった。本会参加により卵子提供や養子縁組の情報提供を受けることは、治療以外の選択肢を考えるきっかけになる。また、個人の家族観を改めて考えることで、夫婦であっても思想や価値観の違いがあることを認識でき、お互いの意見を尊重したうえで夫婦間の家族観を再構築し、夫婦の絆をより深める機会となり得ることが明らかとなった。

【結論】長期不妊患者に対し潜在的に期待される情報を提供できる患者会の開催が患者夫婦の支援になることが明らかとなった。また、認定看護師やカウンセラーが参加者と直接的な関わりを継続して持ち、患者が安心して治療継続や中断、終結、卵子提供、養子縁組などの自己決定ができるよう支援する必要性が示された。